

プロブレムQ&A 化学物質過敏症対策 [専門医・スタッフからのアドバイス]

水城まさみ・小倉英郎・乳井美和子・著 宮田幹夫・監修

緑風出版

本書は化学物質過敏症やシックハウス症候群の患者さんのために書かれた書籍である。読者対象としては、患者さんはもちろん、医師、医療従事者、そして一般の方々が想定されている。化学物質過敏症やシックハウス症候群の専門医は患者さんの数に対して非常に不足している。また、一般の方々が患者さんとのように接すればよいかという情報や、そう考える問題意識も不足している。そこで本書は切実な問題意識に基づき、医師や医療関係者が患者さんに適切な医療や社会保障を提供するためにはどのような診療や生活指導、食事指導、アドバイスをしたらよいかが記述されている。また、一般の方々が、患者さんの苦しみを知り、それを軽減する社会にするにはどうしたらいいかについて、学術的に書かれている。基礎となる知識や情報から最新の医学的な知見まで、具体的な対策がQ&A方式でわかりやすく紹介されているため、とてもポジティブな内容であり、患者さんによりそったあたたかい想いのつまった内容となっている。著者は、盛岡医療センター前副院長の水城まさみ先生、大西病院院長の小倉英郎先生、そよ風クリニック管理栄養士の乳井美和子先生で、そよ風クリニック院長の宮田幹夫先生が監修をされている。専門医、スタッフの先生方が長年の臨床経験や研究成果を集約した類を見ない本である。室内環境研究の一つの目標は、室内空気汚染により発症しうる化学物質過敏症やシックハウス症候群のような健康被害を予防し、患者さんの症状が出ないような室内環境を構築することである。本書を読むと、実際に接することがないとなかなかわからない、患者さんが抱える医療面や日常生活上の課題とそれを解決する対策について学ぶことができる。そのため、環境対策のヒントも多くみつけることができ、必携の書である。本書の構成は以下のとおりである。

はじめに

日本の化学物質過敏症のこれまで

I 化学物質過敏症、シックハウス症候群とは

II 化学物質過敏症、シックハウス症候群の診断は

III 各科の対応（内科一般、アレルギー科、精神科・心療内科、整形外科、歯科）

IV 患者さんへの助言と、療養指導について

V 診断書や意見書について

VI 資料（QEESI問診票、障害年金診断書、障害年金の請求にかかる紹介について）

おわりに



まず「日本の化学物質過敏症のこれまで」では、宮田幹夫先生により化学物質過敏症の臨床と研究のはじまりから未来についての提言が述べられている。次に化学物質過敏症、シックハウス症候群の病態、診断について述べられ、さらに患者さんが受診されたときに各科で対応する際の留意点についても具体的に書かれている。また一般医ができる患者へのアドバイスや有効な治療法、栄養学の視点から有用とされる食事について述べられている。そして、診断書や意見書（一般診断書、労災認定のための意見書、障害年金診断書、訴訟の際の意見書）の書き方について、具体例を基に詳細に記載されている。その他、海外の患者の研究報告、野菜の栄養素の季節変動、仲間の病気等のコラムの他、新型コロナウイルス感染拡大と化学物質過敏症についてのコラムもあり、大変興味深い内容であった。

水城まさみ先生は、闘病されながら本書の執筆を進められ、2020年9月にご逝去された。日本中の化学物質過敏症の患者さんにとって、そして、ご指導いただいていた医療従事者、研究者の皆様にとってかけがえのない先生であり、多くの方が悲しみの中におられることであろう。本書を読むと、水城先生がなお、化学物質過敏症の患者さんに対してよりよい治療ができるように、励ましながらご指導くださっているように感じる。本書を胸によりよい室内環境の構築に貢献していきたいと思う。

近畿大学医学部環境医学・行動科学教室 水越厚史